

# 高校生自身の空間認知と行動を分析し、「実感できる」都市・居住問題学習を

東京都立目黒高等学校 坂口克彦

## 1. 都市・居住問題を身近に感じさせるために

教科書（「新詳地理B」p.268～281）の都市・居住問題に関する記述を理解するには、都市構造を具体的にイメージしたうえで、自分自身の問題として実感させてゆくことが有効な方法である。都市の内部構造についての記述は教科書p.110にも見られるが、それを補足し、さらに身近に感じさせるための工夫を紹介したい。

## 2. 通学圏からわかる都市構造

- 作業1 出身中学校別人数一覧表を用意し、各区町村ごとのTOP5校を列挙させる。
- 作業2 全体の出身TOP5校を列挙させる。
- 作業3 白地図と中学所在位置を示す図を用意して、白地図内の各中学の位置に出身者数を記入させる。
- 作業4 白地図中に、高校位置を記入させる。
- 作業5 出身者数による等値線図を作成させる。

高校生にとって、出身中学についての関心は学年を問わず高く、生徒の反応も非常に良いようである。男女別の単純集計に始まり、データの総合化、図への打点、等値線図の作成という順序立てた作業の深化を企図している。なぜこのような等値線図になったのかその原因を考えさせることによって、通学圏つまり高校生の行動圏が都市の内部構造、とくに交通網配置の制約を受けていることや市区町村の人口規模などに関心を向けさせることができる。また、地域によっては、学区制の実態や統廃合の様子などを実感させることが可能になる場合もある。

## 3. 難読地名の分析から空間認知の状況が分かる

- 作業1 高校の所在する地域の「難読地名」をピックアップし、読み仮名を付けさせる。
- 作業2 高校所在地の隣接地域の「難読地名」を選び、読み仮名を付けさせる。
- 作業3 答え合わせをして、各地名ごとのクラス内正答者数を調べた結果を、各地名を予め記入してある白地図内に記入させる。

地理歴史科地理プリント No. 1 ( )月( )日

第 学年 期 氏名

【 都市構造と通学圏 — 本校生徒の出身中学校分析から — 】

注) 区境中と外境中は原簿外  
 発中に、座標中と座標中  
 付番新発中に付すこと

設問1 第2学区の各別で  
 出身者数の多い中学校  
 男女計(10校)を書け

区	中学校	計		区	中学校	計	
		男	女			男	女
目黒区	山手	12	9	目黒区	山手	12	9
	目黒	3	3		目黒	3	3
	目黒	4	5		目黒	4	5
	目黒	5	2		目黒	5	2
	目黒	8	8		目黒	8	8
目黒区	目黒	9	10	目黒区	目黒	9	10
	目黒	11	11		目黒	11	11
	目黒	12	12		目黒	12	12
	目黒	13	13		目黒	13	13
	目黒	14	14		目黒	14	14
目黒区	目黒	15	15	目黒区	目黒	15	15
	目黒	16	16		目黒	16	16
	目黒	17	17		目黒	17	17
	目黒	18	18		目黒	18	18
	目黒	19	19		目黒	19	19
目黒区	目黒	20	20	目黒区	目黒	20	20
	目黒	21	21		目黒	21	21
	目黒	22	22		目黒	22	22
	目黒	23	23		目黒	23	23
	目黒	24	24		目黒	24	24
目黒区	目黒	25	25	目黒区	目黒	25	25
	目黒	26	26		目黒	26	26
	目黒	27	27		目黒	27	27
	目黒	28	28		目黒	28	28
	目黒	29	29		目黒	29	29
目黒区	目黒	30	30	目黒区	目黒	30	30
	目黒	31	31		目黒	31	31
	目黒	32	32		目黒	32	32
	目黒	33	33		目黒	33	33
	目黒	34	34		目黒	34	34

設問2 4区全体での、男女合計出身者数の多い  
 中学校(10校)を書け

順位	中学校	人数	区
1位	山手	人	( )区
2位	目黒	人	( )区
3位	目黒	人	( )区
4位	目黒	人	( )区
5位	目黒	人	( )区

説明1 次に挙げるのは、東京23区内外の隣接地方内にある地名である。その読みがなを（ ）内に書け。

第 学年 朝 書 氏名

後々の身の回りの「地名」には、歴史的・自然的な背景の盛り込まれていることが多い。東京付近の「地名」について答えよ。

説明1 次に挙げるのは、東京23区内外にある地名である。その読みがなを（ ）内に書け。自信のないものについては、何も書かなくて良い。

- |            |     |            |     |
|------------|-----|------------|-----|
| 1. 小日向     | ( ) | 28. 姫路町    | ( ) |
| 2. 千石      | ( ) | 27. 赤羽町    | ( ) |
| 3. 下谷      | ( ) | 28. 百景     | ( ) |
| 4. 若葉橋     | ( ) | 29. 谷在家    | ( ) |
| 5. 荻原      | ( ) | 30. 横塚     | ( ) |
| 6. 篠谷      | ( ) | 31. 清澄     | ( ) |
| 7. 徳文谷     | ( ) | 32. 小山台    | ( ) |
| 8. 松瀬      | ( ) | 33. 豊番     | ( ) |
| 9. 弱       | ( ) | 34. 辻原町    | ( ) |
| 10. 道原谷    | ( ) | 35. 三宿     | ( ) |
| 11. 本天沼    | ( ) | 36. 杖ヶ木陣屋町 | ( ) |
| 12. 鷺宮     | ( ) | 37. 向原     | ( ) |
| 13. 雑司が谷   | ( ) | 38. 秋葉     | ( ) |
| 14. 内幸町    | ( ) | 39. 豊町     | ( ) |
| 15. 尾崎町    | ( ) | 40. 小豆沢    | ( ) |
| 16. 森有田六町  | ( ) | 41. 貫井     | ( ) |
| 17. 神楽坂    | ( ) | 42. 志茂     | ( ) |
| 18. 上谷神井   | ( ) | 43. 東久野    | ( ) |
| 19. 成塚     | ( ) | 44. 新田土町   | ( ) |
| 20. 赤人     | ( ) | 45. 小笠     | ( ) |
| 21. 豊洲     | ( ) | 46. 鹿嶋町    | ( ) |
| 22. 青砥     | ( ) | 47. 駒込     | ( ) |
| 23. 豊島     | ( ) | 48. 篠巻     | ( ) |
| 24. 神田富士代町 | ( ) | 49. 葛粉所宿   | ( ) |
| 25. 芝草町    | ( ) | 50. 神田多町   | ( ) |

- |          |     |            |     |
|----------|-----|------------|-----|
| 51. 門田町  | ( ) | 82. 北入船    | ( ) |
| 52. 幸乳   | ( ) | 83. 藤生     | ( ) |
| 53. 境南町  | ( ) | 84. 新原町    | ( ) |
| 54. 百草   | ( ) | 85. 新藤町    | ( ) |
| 55. 佐須町  | ( ) | 86. 新久     | ( ) |
| 56. 石村   | ( ) | 87. 藤松     | ( ) |
| 57. 聖ヶ丘  | ( ) | 88. 乾岡     | ( ) |
| 58. 猪方   | ( ) | 89. 西阿弥    | ( ) |
| 59. 上根木  | ( ) | 90. 道祖     | ( ) |
| 60. 上川原町 | ( ) | 91. 船      | ( ) |
| 61. 谷儀   | ( ) | 92. 上内塚木   | ( ) |
| 62. 是茂   | ( ) | 93. 栗女新田   | ( ) |
| 63. 広瀬町  | ( ) | 94. 南後台    | ( ) |
| 64. 虫生   | ( ) | 95. 湯台     | ( ) |
| 65. 柳田町  | ( ) | 96. 万福寺原   | ( ) |
| 66. 四道町  | ( ) | 97. 蓮田東    | ( ) |
| 67. 中降   | ( ) | 98. 松崎町    | ( ) |
| 68. 麓敷   | ( ) | 99. 弘内町    | ( ) |
| 69. 小般木  | ( ) | 100. 北番    | ( ) |
| 70. 町欠   | ( ) | 101. 葉町    | ( ) |
| 71. 柳沢   | ( ) | 102. 堤子    | ( ) |
| 72. 神代町  | ( ) | 103. 関門台   | ( ) |
| 73. 柳家   | ( ) | 104. 砂子    | ( ) |
| 74. 原木   | ( ) | 105. 小向仲町  | ( ) |
| 75. 飯山崎町 | ( ) | 106. 赤野三軒町 | ( ) |
| 76. 三ヶ月  | ( ) | 107. 千早新町  | ( ) |
| 77. 下次切  | ( ) | 108. 掛形    | ( ) |
| 78. 各務宿  | ( ) | 109. 神次    | ( ) |
| 79. 松船   | ( ) | 110. 金控    | ( ) |
| 80. 西酒原  | ( ) | 111. 寺田    | ( ) |
| 81. 神栄金  | ( ) |            | ( ) |

を示すものである  
と言えよう。

その結果、中心地階層構造、交通網などのほか、観光スポットの強い認知が明らかになった。さらに、筆者が他校で実施した調査も紹介することによって、高校所在地域によって認知・行動空間が大きく異なることも理解させることができた。

#### 作業4 白地図に記入した正答者数による等値線図を作成させる。

谷川彰英（『地名を生かす社会科の授業』、黎明書房、1986）が指摘するように、近年は地名教育が注目されるようになった。地名の持つ自然・社会的な意味を講義する導入として、このようなクイズ形式を取り入れることによって、生徒の関心・意欲を喚起しようという試みであるが、これかなりの反応があり、普段は積極的に取り組まない生徒までが大ノリになったり、正解できずに悔しがったりするようなこともあるほどである。

難読地名の選定については、権田雅幸（「難読地名と意識空間」、地理、第24巻11号、1979）の方法に従い、23特別区内から50地名、区外から61地名をピックアップした。権田も指摘するように、難読地名を読めることが即ち「地域を知っていること」とイコールになるわけではないが、背理法的に「読めなかった生徒＝地域を知らない」ということは言える。よって、ここで作成された等値線図も高校生の空間認知と行動のある程度の状態

#### 4. むすび

この実践によって、生徒たちは同心円型・扇形等の都市構造とそれに制約された行動空間を認識することができるようになる。それにより、①交通網の分布構造からラッシュ・渋滞問題はいかに生じ、その解消のためにどんな努力が見られるか、②都心・副都心・衛星都市などの都市機能はどう分化し、自らの行動に影響を与えるのか、③中心地階層の違いが最寄品・買回品・高級品等の購買行動や余暇活動に与える影響はどのようなものか、④地域の境界（都道府県境・市区町村境・学区）が自分たちの行動に与える影響はどうか、⑤自然や歴史文化を地名から分析するにはなど、都市・居住問題学習をさらに深めていく契機とするなどの広がり期待することができよう。そして何よりも、この実践は「生徒の心をつかみ、都市・居住問題を自分自身の課題としてとらえさせる」ことこそが主目的である。全国各地で数多くの類似実践が生まれることを期待して止まない。